

# シリーズ：進化し続ける産総研のコーディネーション活動(第52回) 食品分野における新たな連携の広がりへ向けて

イノベーションコーディネータ こだか まさと  
小高 正人

## コーディネーション活動で心がけていること

ライフサイエンス分野の重点戦略や方向性に基づき、イノベーションコーディネータとしての特徴を出すことに努めています。近年、企業のニーズは多様化してきて、ライフサイエンス分野のみでは対応できない場合もあり、他分野との協力がますます重要となってきました。また、地域との関係では、地域センターのイノベーションコーディネータとの協力により、企業のニーズに対してできるかぎりオール産総研で対応できるように心がけています。さらに、常に新たな連携先を探していくといった基盤的な活動も行っています。産総研シーズの紹介と企業ニーズの把握、これらに基づく連携のきっかけ作りを行うために、バイオジャパンなどの展示会や発表会をそれぞれの特徴に合わせて活用することが有効と思われる。

## 食品分野における連携の広がり

製薬企業や化学材料系企業との連携とともに、食品企業との連携も模索しています。食品は健康的な生き方を実現する技術開発に関わっていると考えられ、超高齢社会を迎え健康食品の市場も拡大しています。

食品の機能性に関しては、血圧降下や血糖値上昇抑制などに関わる機能性成分の探索および評価が産総研で行われてきました。また、これらの探索や評価とともに、機能性成分の分析法も重要な課題となっていて、四国センターなどが連携協力して機能性成分分析法マニュアル集を作成してきました。さらに、機能性成分分析法のフォーラム標準化を目指して、2012年度に産業技術連携推進会議(産技連)四国地域部会に食品分析フォーラム分科会が設置されました。

血圧降下や血糖値上昇抑制などの機能性とともに、生体リズムの改善に関わる機能性も注目されてきています。バイオメディカル研究部門の生物時計研究グループが世話人となり、2009年度にニュートリズム検討会が発足しました。(https://unit.aist.go.jp/biomed-ri/biomed-bcl/NutriRhythm/index.html) この検討会では、食による体内時計の制御によってQOL (Quality of Life) 向上などに貢献することを目指した活動が行われています。企業との連携を目指してこの活動をさらに広めるためには、イノベーション

コーディネータが産学官連携活動を行っている種々の展示会や発表会の場を使うことも非常に効果的な方法と考えられます。例えば、毎年開催されている産総研・産技連LS-BT合同研究発表会(LSはライフサイエンス、BTはバイオテクノロジーを表します)は、産総研や公設試験研究機関の研究成果発表などを行う場で、企業や大学などへも参加を呼びかけ、研究者の相互交流や連携協力の促進などを目指しています。この分野の具体的な成果としては、例えば、小麦ポリフェノールの肥満抑制効果などについての研究成果が挙げられます。

(https://www.aist.go.jp/aist\_j/press\_release/pr2013/pr20130520/pr20130520.html)

## 今後の連携活動

食品機能の分野では、時間栄養学という視点からの研究と商品開発が盛んになってくると考えられます。また、食品製造の分野では、種々の異分野技術が必要になってくると考えられます。今後は、このような「新しい機能性」と「異分野技術」という二つの方向を見ながら、研究者への支援と産学官連携活動を行っていきたいと思います。



産総研・産技連 LS-BT 合同研究発表会であいさつする筆者